

## 成果の説明書

(氏名) 福間聡	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>A. 教育</p> <p>(1) 初年次ゼミ (前期)</p> <p>大学で学ぶ上で必要なアカデミック・スキルを新一年生が体得できるよう心がけた。とりわけ、テキストの批判的読解、文献・資料の検索、レポートの書き方、ディベートの流儀を重点的に指導した。</p> <p>(2) 法哲学/現代社会と法 (前期)</p> <p>J.ロールズの正義論の特徴を過去から現在の正義論の系譜を踏まえながら講義した。受講者が現代社会におけるロールズ正義論の意義を理解し、今日の社会的諸問題を哲学的に考察する能力を身につけられることを本講義は目標とした。講義中、受講者に質問をすることで、インタラクティブな授業となるように努めた。</p> <p>(3) 公共哲学/現代社会と法 (後期)</p> <p>「公共性」にまつわる諸問題を考察することを通じて、我々にとって望ましい公共的な生とはどのようなものであるべきかについて、受講者が自分の考えを持つことができるようになるように努めた。講義中、受講者に質問をすることで、インタラクティブな授業となるように心掛けた。</p> <p>(4) 倫理学 (後期)</p> <p>本講義では、「善の根拠」「トローリー問題」「作為と不作為」「道徳的運」「動物の権利」「刑罰の必要性」「他国の文化に対する寛容」「移民の受入」「正戦論」といった問題群を受講者と共に検討した。受講者が、倫理的な問題に対する自分なりの考えを持つことができ、他人に自分の考えを適切に説明することができるようになるように試みた。講義中、受講者に質問をすることで、インタラクティブな授業となるように心掛けた。</p> <p>(5) 演習 I (通年)</p> <p>公共哲学・倫理学に関わる文献を批判的に吟味することを通じて、ゼミ生たちが現代日本の諸問題に対して自分自身の見解を持つことができるよう指導した。</p> <p>(5) 演習 II (通年)</p> <p>前年度までのゼミでの学習を基に、卒業論文をゼミ生たちが執筆するために必要なスキルの教授と論文の添削指導を行った。</p> <p>B. 研究</p> <p>(1) 学会発表・研究会報告</p> <p>“Meaningful Work, Worthwhile Life, and Self-Respect: Reexamination of Rawlsian Perspective on Basic Income in Property-Owning Democracy,” The 16th BIEN (Basic Income Earth Network) Congress (Sogang University), July 2016.</p> <p>(2) 翻訳</p> <p>サイモン・ブラックバーン『倫理的な反実在論』(編・監訳 大庭健)、第2章「道徳実在論」、第5章「倫理的な反実在論者になる方法」担当、(勁草書房 2017年2月)</p>	

(3) 科学研究費

科学研究費助成事業基盤研究 (C)「働くことの意味と所得保障政策との規範的な関連性の検討」研究期間: 2014 年 4 月 - 2017 年 3 月 代表者: 福間聡

C. 社会貢献

(1) 公開講座講師

「運に対する道徳的責任について」第 33 回 (2016 年度) 高崎経済大学公開講座「現代社会への多面的アプローチ」第二回 (10 月 12 日)

3 次年度以降の計画・抱負

来年度も引き続き、「働くことの意味と所得保障政策との規範的な関連性の検討」というテーマを軸に、研究・教育活動に邁進したい。